



ボイラーマンの心掛け

西川 要 八

生きたボイラーを、取扱うことについてはおよそ二十数年前に、既に法的に規定されており、ボイラーマンたる者の、等しく心得ていることであるので、今更事改めて取上げるほどの事柄でもありませんし、さりとて今ここに、特別変わったボイラーを紹介しても亦、限りない事でありますから、ただ各々の取扱に対する心構となる様なことを漫談的に書いて見たいと思いません。

少年の頃から、ボイラーと密接な関係のある仕事についていたためか、其の後度々職場が変わってもアンコの時から、生カジリに覚えたボイラーの仕事は、何処へ行っても其の染香が、抜け切れないものとなって仕舞った。元々ボイラーを理解し、ボイラーによって生涯の方針を立て様なぞとは、夢にも思っていなかったのだが、何時の頃か特種技能者などといわれて何処へ行くにもボイラーとおよそ縁のない仕事には、変ることが出来ない様になって仕舞っていたことに気がついて、何か無量の感に打たれた、と同時に、其の後自ら求めて仕事を撰択する場合は、きっとボイラーであることに、思をいだすのである。

かくて二十数年ボイラー屋で過ぎ越して来た。そして十種に近いタイプの罐を取扱って来たし、同じタイプの罐であっても、其の設置場所や燃料の種類等によっては、取扱も自ら異なるものであるし、其の都度新しい気持ちに打たれた。

ボイラー屋として、自信を以ってボイラーと組合って行けるのは、少くとも十年は要するであります。之は私も経験した事がありますが、二、三年も同じ仕事をしていたら十年前からやっていた人と、何ら異なる処がないし、更に超越してる様な自惚れも生じて来るものでした。しかし良く考えて見ると、異例は別として、五年は五年の価値、十年は十年の深さがあることに気が付きます。

十年も過ぎますと、すっかり慣れ切って、自信もつき安心して任せ切ることが出来るのである。とは事業主

の言うことで、実際に取扱をするボイラーマンは、それこそ細心の注意を払い、食事をしながらも油断のないこと、食へども其味を知らずです。一、二年たつてどうやら操作の覚えた頃が、本人に取っては一番安心して居眠りの出来る時です。こんな盲蛇に恐れずの時は、事業主は安心して任せて置く訳には参りません。ボイラーは生きている。一度働く状態にして置いたなら、暫らくは働いているものです。

殊に機械操作の場合、最も好調子にある時などは、数時間手をふれなくとも働いています。

或先輩が新しいボイラーを設置したときの話に、新しい女房を貰ったつもりで可愛がつてやるべきだと、面白いことを聞いたが、全く味のある言葉であると思う女房なればお互いに、貧乏暮らしは覚悟の上での理解は出来てるのですから、何も多額の経費を要求しようとはしません。只何時も変らない愛情を以って見守り、いたわってやったなら満足して働いて呉れるものです。それなのに誰かと相手になって、つきることない話に花を咲せていられたら、それこそヒステリーの起るのも当り前と言はなくてはなるまい。

これが、安全弁から噴き出すだけの損失なら、軽い方ではあるが、亀裂、火災、は愚か爆発に至っては、最早取返しのつかない惨事となります。

最近この様な、ボイラー自体の爆発事件は聞かなくなりましたが、以前は諸外国にも、相当発生した事がありました。写真で見ても、広島原爆と全く同一の惨状で原形あるものは一物もない位です。

十数年前札幌でも、安全弁が隣家の屋根を突き破り奥の間に落ちて、茶の間で食事をしていた人々は大ききわぎしたと言うこともあります。

一人のボイラーマンの不注意から、この様な大きな災害を、引き起こすことがしばしばあることですから、良く良く心して行かなければなりません。亦経験者だからとて随分と注意はしているものの、以前のボイラーに対する操作法が頭から抜け切らず、変わったボイラー

といへども同一の考えのもとに之を行いたい様に行かない場合もあります。前項にも申上げた通り、変る毎に心新なる気持を持って之に当るなれば、大きな間違いなくて済むのではなからうかと思えます。

之亦女房の変った如く、それぞれのテクニックも自ら異なるものだそうです。「私には経験がありませんが」亦色々の癖なども良く知りつつも、少々漏り出したがスケールも溜っているが或はレンガの崩れも出来て来たが、時期を見てなんて適当に、自分の都合のみを考えて、先方の気持を理解してやらないと、一日一日其の損傷は大きくなるばかりであります。

病氣は早い内に治さなくてはなりません。

早ければ衰弱もなく損失も少いし、不具にもならずには済んで、何時も健康で平和な家庭が保たれます。

どんな条件の悪いボイラーでも如何なるタイプのボイラーでも、真実の愛情をもって常に手入し修理して、大事に至らぬ様見守つて行くならば、手をかけたほど益々愛情もわいて来るし、アバタもエクボと変つて来離れがたいものとなって来ます。即ちボイラーと人が常に一体となり別々のものでないことです。

その時こそ「アン上人なくアン下馬なし」の如く、すばらしきボイラーマンであることを証明されるであります。 —動力室—

最近の横山産業用ボイラーに就いて

横山工業株式会社

土 屋 忠 四 郎

江 草 龍 男

1. まえがき

先ず最近数年間に建設された極めて新しいボイラーに就いて概要を御説明申し上げ、次に弊社の一般産業用ボイラーに関して少し詳しく解説致し度いと思えます。その中でも特に我国が当面している燃料の問題に就いて深い関心を払っている次第であります。大体我国の置かれている立地条件として、石油資源はその大部分を諸外国に依存しなければならぬのであり、更に石炭に致しましても質及び量共に不十分な状況であります。従つてこの点、大規模な発電用はもち論、一般産業用ボイラーに到るまで充分な計画のもとに燃料及び燃焼炉の選定を行わなければならないと思えます。この意味に於いて弊社はさきに低質炭の利用方法及び燃焼炉に関してドイツ YKW 社を技術提携をなし、毎年 5~7 名程度の技師をドイツに派遣してその技術を修得させ、又ドイツからも数名の技師を指導者として迎え既に九州電力 KK 港第一発電所に於いて横山 VKW 式連続スラッグタップボイラーを完成致しました。又ドイツ VKW 社のベンソリボイラーを現在旭ガラス KK 牧山工場に於いて建設中であります。このボイラーは強制貫流式でありまして、圧力 140kg/cm、蒸気温度 525°C でありますから、従来の我国発電用ボイラーと比較すると実に画期的高温高压ボイラーであること

が判ります。又このボイラーは汽水ドラムがありませんから、この点からも注目すべきものであります。以上は最近の弊社の手による最新式大型発電用ボイラーに就いて申上げたのでありますが、次に一般産業用ボイラーに就いて少し詳細な御説明を致し度いと思えます。

第 1 表

明治製菓株式会社納

横山 VKW-E 型水管式ボイラー性能試験記録表

試験施行年月日 昭和 29 年 9 月 16 日

項 目	単 位	仕 様	記録値
蒸 発 量	kg/h	7.000	6.760
蒸 気 圧 力	kg/cm	10	6.9
給 水 温 度	°C	70	66
燃 料 低 値 発 熱 量	Kcal/kg	10.000	10.000
燃 料 消 費 量	kg/h	483	469
燃 料 状 況			
ガス温度(ボイラ出口)	°C	370	350
“ (エコ出口)	“	280	282
ボ イ ラ 効 率	%	84	85.7

2. 横山 VKW-E 型ボイラ

本ボイラーは既にドイツに於て VKW 社が立派な実

ボイラーマンの心掛け 西川 要 八

生きたボイラーマンを、取扱うことについてはおよそ二十数年前に、既に法的に規定されており、ボイラーマンたる者の、等しく心得ていることであるので、今更事改めて取上げるほどの事柄でもありませんし、さりとして今ここに、特別変ったボイラーを紹介してもまた、限らない事でありますから、ただ各々の取扱に対する心構えとなる様なことを漫談的に書いてみたいと思います。

少年の頃から、ボイラーと密接な関係のある仕事についていたためか、その後度々職場が変わってもアンコの時から、生カジリに覚えたボイラーの仕事は、何処へ行っても其の染香が、抜け切れないものとなって仕舞った。元々ボイラーを理解し、ボイラーによって生涯の方針を立て様なぞとは、夢にも思っていなかったのだが、何時の頃か特殊技能者なぞと言われて何処へ行くにもボイラーとおよそ縁のない仕事には、変ることが出来ない様になって仕舞っていた事に気がついて、何か無量の感に打たれた、と同時に、その後自ら求めて仕事を選択する場合は、きっとボイラーであろうことに、思をいだすのである。

かくて二十数年ボイラー屋で過ぎ越してきた。そして十種に近いタイプの罐を取扱ってきたし、同じタイプの罐であっても、其の設置場所や燃料の種類等によっては、取扱も自ら異なるものであるし、其の都度新しい気持ちに打たれた。

ボイラー屋として、自信を以ってボイラーと組合って行けるのは、少なくとも十年は要するであります。

これは私も経験した事がありますが、二、三年も同じ仕事をしていたら十年前からやっていた人と、何ら異なる処がないし、更に超越してる様な自ぼれも生じて来るものでした。しかし良く考えて見ると、異例は別として、五年は五年の価値、十年は十年の深さがあることに気が付きます。

十年も過ぎますと、すっかり慣れ切って、自信もつき安心して任せ切ることが出来るのである。とは事業主の言うことで、実際に取扱をするボイラーマンは、それこそ細心の注意を払い、食事をしながらも油断のないこと、食えども其の味を知らずです。一、二年たってどうやら操作の覚えた頃が、本人にとってが一番安心して居眠りの出来る時です。こんな盲蛇に恐れずの時は、事業主は安心して任せて置く訳には参りません。ボイラーは生きている。一度働く状態にして置いたなら、暫くは働いているものです。

殊に機械操作の場合、最も好調子にある時などは、数時間手をふれなくとも働いています。或先輩が新しいボイラーを設置したときの話に、新しい女房を貰ったつもりで可愛がってやるべきだと、面白いことを聞いたが、全く味のある言葉であると思う。女房なればお互いに、貧乏暮らしは覚悟の上での理解は出来ているのですから、何も多額の経費を要求しようとはしません。只何時も変らない愛情を以って見守り、いたわってやったなら満足して働いて呉れるものです。それなのに誰かと相手になって、つきることない話に花を咲かせていられたら、それこそヒステリーの起るのも当たり前と言わなくてはなるまい。

これが、安全弁から噴き出すだけの損失なら、軽い方ではあるが、亀裂、火災、は愚かな爆発に至っては、最早取返しのつかない惨事となります。

最近この様な、ボイラー自体の爆発事件は聞かなくなりましたが、以前は諸外国にも、相当発生した事がありました。写真で見ても、広島原爆と全く同一の惨状で原形あるものは一物もない位です。

十数年前札幌でも、安全弁が隣家の屋根を突き破り奥の間に落ちて、茶の間で食事をしていた人々は大騒ぎしたと言うこともあります。

一人のボイラーマンの不注意から、この様な大きな災害を、引き起こすことがしばしばあることですから、よくよく心して行かなければなりません。また経験者だからと随分と注意はしているものの、以前のボイラーに対する操作法が頭から抜け切らず、変ったボイラー

といえども同一の考えのもとにこれを行い思う様に行かない場合もあります。前項にも申上げた通り、変る毎に心新たなる気持ちを持ってこれに当るなれば、大きな間違いなくて済むのではなからうかと思えます。

これまた女房の変った如く、それぞれのテクニックも自ら異なるものだそうです。「私には経験がありませんが」また色々の癖なども良く知りつつも、少々漏り出したがスケールも溜まっているが或はレンガの崩れも出来て来たが、時期を見てなんて適当に、自分の都合のみを考えて、先方の気持ちを理解してやらないと、一日一日其の損傷は大きくなるばかりであります。

病気は早い内に治さなくてはなりません。

早ければ衰弱もなく損失も少ないし、不具にもならず済んで、何時も健康で平和な家庭が保たれます。

どんな条件の悪いボイラーでも如何なるタイプのボイラーでも、真実の愛情をもって常に手入れし修理して、大事に至らぬ様見守って行くならば、手をかけたほど益々愛情もわいて来るし、アバタもエクボと変って来、離れがたいものとなって来ます。即ちボイラーと人とが常に一体となり別々のものでないことです。

その時こそ「アン上人なくしてアン下馬なし」の如く、すばらしきボイラーマンであることを証明されるであります。

動力室